

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

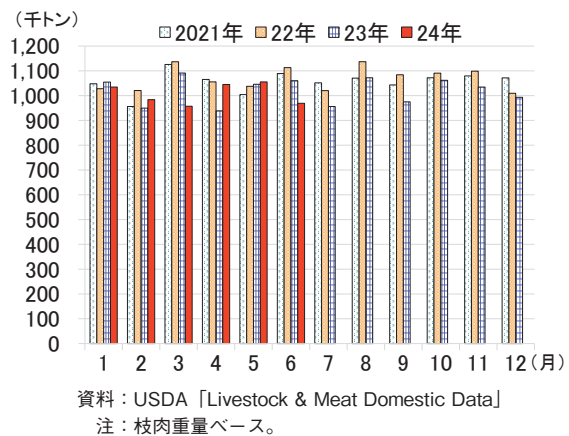
24年5月の牛肉輸出量はわずかに減少、日本向けはかなり大きく増加

24年6月の牛肉生産量は前年同月比8.6%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年6月の牛と畜頭数は254万1000頭（前年同月比12.3%減）とかなり大きく減少し、同年上半期（1～6月）の累計では、1586万9000頭（前年同期比4.4%減）とやや減少した。上半期と畜頭数の内訳を見ると、去勢牛が763万頭（同1.6%減）、未経産牛が508万頭（同1.5%減）とそれぞれわずかに減少した。また、肉用経産牛が150万頭（同15.5%減）、乳用経産牛が141万頭（同14.3%減）といずれもかなり大きく減少した。現地報道によると、干ばつの改善に加え、乳価上昇や飼料費の下落に伴う酪農マージンの拡大により、雌牛を保留する動きが見られたとされている。

と畜頭数が減少した一方、1頭当たりの平均枝肉重量の増加により、6月の牛肉生産量は96万9000トン（前年同月比8.6%減）と牛と畜頭数の減少幅を下回り、上半期の累計では604万5000トン（前年同期比1.6%減）とわずかに減少した（図1）。

図1 牛肉生産量の推移



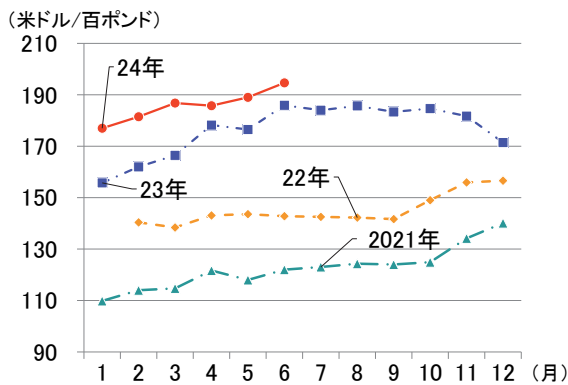
24年6月の肥育牛価格は前年同月比4.7%高、肥育もと牛の輸入は大幅増

USDA/NASSによると、2024年7月1日時点のフィードロット飼養頭数は1130万4000頭（前年同日比0.5%増）とわずかに増加した。と畜ペースの遅れに伴う肥育期間の長期化が進む中で、生体牛の輸入増が肥育牛供給の一部を補っている。同年1～5月の生体牛輸入頭数は、96万頭（前年同期比18.7%増）と大幅に増加した。このうち、主にフィードロットへ導入される肥育もと牛の輸入頭数は、68万6000頭（同18.5%増）と大幅に増加し、輸入先別では、メキシコが61万1000頭（同19.6%増）と大幅に、カナダが7万5000頭（同10.1%増）とかなりの程度それぞれ増加した。

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、24年6月の肥育牛価格は、100ポンド当たり194.65米ドル（1キログラム当たり658円：1米ドル＝153.44円^{（注）}、前年同月比4.7%高）とやや上昇した（図2）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
 注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
 注2：2022年1月の値は、N/A値。

24年5月の牛肉輸出量、前年同月比2.9%減も日本向けは増加

USDA/ERSによると、2024年5月の牛肉輸出量は11万7450トン（前年同月比2.9%減）とわずかに減少し、同年1～5月の累計では56万7562トン（前年同期比4.9%減）とやや減少した（表）。

5月の輸出量を輸出先別に見ると、日本向けはインバウンドなどの堅調な外食需要から2万5153トン（同14.1%増）とかなり大きく増加した。一方、韓国向けは2万2475トン（同22.5%減）、中国向けは1万9299トン（同8.8%減）とそれぞれ減少した。

24年の牛肉輸出量の見込みについてUSDAは、堅調な需要により前月予測から4万1000トン引き上げ、131万9000トン（前年比4.3%減）と見込んでいる。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 5月	24年 5月	24年		24年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
			前年同月比 (増減率)	輸出割合		
日本	22,043	25,153	14.1%	21.4%	125,811	▲3.5%
韓国	29,002	22,475	▲22.5%	19.1%	119,889	▲14.0%
中国	21,151	19,299	▲8.8%	16.4%	91,369	▲8.5%
メキシコ	10,818	12,407	14.7%	10.6%	65,179	16.7%
カナダ	13,616	10,448	▲23.3%	8.9%	45,592	▲7.3%
台湾	8,535	8,260	▲3.2%	7.0%	32,979	▲10.9%
フィリピン	1,103	1,948	76.6%	1.7%	9,021	19.5%
その他	14,717	17,461	18.6%	14.9%	77,722	0.3%
合計	120,985	117,450	▲2.9%	100.0%	567,562	▲4.9%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

牛肉生産量は増加も枝肉価格は高値を維持

24年4月の牛肉生産量、前年同月比16.4%増

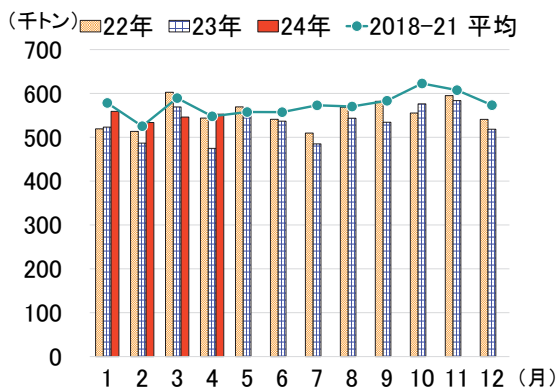
欧州委員会によると、2024年4月の牛と畜頭数は187万2350頭（前年同月比14.2%増）とかなり大きく増加し、1頭当たりの枝肉重量も295.2キログラム（同2.0%増）とわずかに増加した。この結果、牛肉生産量（EU27カ国）は55万2630トン（同16.4%増）と大幅に増加した（図1）。また、同年1～4月の累計牛肉生産量は219万1310トン（前年同期比6.7%増）と前年同期をかなりの程度上回った。

英国農業園芸開発委員会（AHDB）によると、牛肉需要の減退や環境規制などから域内で繁殖牛群を縮小する傾向が強まり、特に繁殖雌牛の淘汰が進んだとした上で、24年後半は牛肉生産量の減少が見込まれるとされている。

欧州委員会は、24年5月3日に公表した農畜産物の短期的見通し^{（注1）}の中で、24年の牛肉生産量を前年比2.4%減の630万4000トンと見込んでいる。

（注1）海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003794.html）をご参照ください。

図1 牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

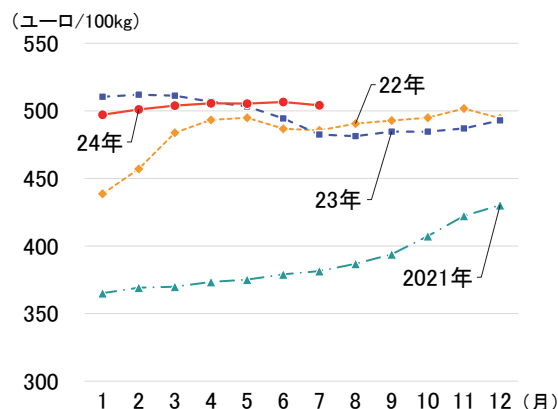
24年7月の枝肉卸売価格、引き続き堅調に推移

2024年7月の牛枝肉平均卸売価格^{（注2）}は、100キログラム当たり504.12ユーロ（8万3881円：1ユーロ＝166.39円^{（注3）}、前年同月比4.5%高）となった（図2）。前月比では2.5ユーロ（416円）安となったが、24年に入っても堅調に推移している。現地報道によると、飼養頭数が減少している中で、パッカー（食肉処理・加工業者）が稼働率を維持するためにと畜牛を積極的に受け入れていることが、生体牛の高値が続く要因とされている。一方で、小売価格には転嫁できていないため、パッカーの利益は圧縮しているとされている。

（注2）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合が平均的（5段階中3）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

図2 牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」

注：EU参考価格。

24年5月の牛肉輸出量、前年同月比14.4%増

2024年5月の牛肉輸出量は、4万1807トン（前年同月比14.4%増）とかなり大きく

増加した（表1）。最大の輸出先である英国向けは冷蔵（同4.3%減）、冷凍（同9.7%減）ともに前年同月を下回ったものの、23年にEU産牛肉の輸入を再開した冷蔵のトルコ向け（同38.0%増）が大幅に増加したことに加えて、2月にアルジェリアがスペイン産牛肉の輸入を再開したことが輸出増に寄与した。

一方、24年5月の牛肉輸入量は、1万

9042トン（同6.8%減）とかなりの程度減少した（表2）。米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の分析によると、域内の経済活動の減速や小売価格の高騰による牛肉需要の低迷、主要輸入先である英国の牛肉供給がひっ迫傾向にあることから、24年の牛肉輸入量は前年比2.5%減の35万トンと予測されている。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 (増減率)	23年 (1~5月)	24年 (1~5月)	前年比 (増減率)
	トルコ	5,360	7,395	38.0%	11,139	35,395	217.8% (約3.2倍)
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,983	3,140	5.3%	12,805	15,335	19.8%
	アルジェリア	0	2,217	—	0	11,110	—
	スイス	646	1,370	112.1% (約2.1倍)	5,228	5,890	12.7%
	その他	2,265	2,337	3.2%	12,165	13,274	9.1%
	合計	23,862	28,525	19.5%	104,181	143,280	37.5%
冷凍	英国	6,554	5,921	▲ 9.7%	31,398	28,219	▲ 10.1%
	フィリピン	813	1,520	87.0%	3,526	5,573	58.1%
	カナダ	483	499	3.3%	2,158	2,962	37.3%
	香港	391	473	21.0%	1,904	3,171	66.5%
	日本	391	697	78.3%	1,876	2,192	16.8%
	その他	4,055	4,172	2.9%	18,692	20,862	11.6%
	合計	12,687	13,282	4.7%	59,554	62,979	5.8%
冷蔵・冷凍計		36,549	41,807	14.4%	163,735	206,259	26.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

品目	輸入先	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 (増減率)	23年 (1~5月)	24年 (1~5月)	前年比 (増減率)
アルゼンチン	3,812	3,180	▲ 16.6%	19,003	18,915	▲ 0.5%	
ウルグアイ	764	1,024	34.0%	9,104	9,120	0.2%	
ブラジル	1,709	1,608	▲ 5.9%	6,320	6,808	7.7%	
米国	1,485	1,173	▲ 21.0%	5,797	5,032	▲ 13.2%	
その他	888	1,390	56.5%	4,362	5,749	31.8%	
合計	13,245	12,406	▲ 6.3%	69,199	70,307	1.6%	
冷凍	ブラジル	3,667	3,283	▲ 10.5%	21,074	17,245	▲ 18.2%
	英国	1,408	1,206	▲ 14.3%	6,861	5,845	▲ 14.8%
	ウルグアイ	798	820	2.8%	4,965	4,868	▲ 2.0%
	ナミビア	545	339	▲ 37.8%	1,554	1,044	▲ 32.8%
	アルゼンチン	148	331	123.6% (約2.2倍)	1,479	1,426	▲ 3.6%
	その他	620	657	6.0%	2,518	4,110	63.2%
合計	7,186	6,636	▲ 7.7%	38,451	34,538	▲ 10.2%	
冷蔵・冷凍計		20,431	19,042	▲ 6.8%	107,650	104,845	▲ 2.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

（調査情報部 藤岡 洋太）

豪州

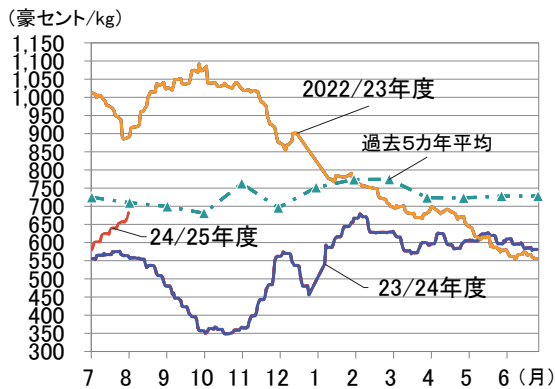
24年7月の成牛と畜頭数、旺盛な輸出需要を反映し高水準で推移

24年7月の肉牛価格、過去5カ年平均に迫る水準に上昇

豪州の肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2024年7月以降上昇傾向が続いている。豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、直近7月31日は1キログラム当たり682豪セント（693円：1豪ドル＝101.65円^{（注）}）と過去5カ年平均に迫る水準となった（図1）。現地報道によると、米国向けなど輸出需要の増加が、と畜頭数の増加と価格上昇の要因とされている。また、MLAが同年4～5月に実施した肉用牛生産者意向調査では、調査対象となった肉用牛生産者の82%がこの先1年間に飼養頭数を維持または増頭する意向を示している。これは、今後の降雨量増加による牧草確保の見通しや、輸出需要の継続が見込まれるためとされている。このため、EYCI価格も連動して上昇傾向にあるとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移

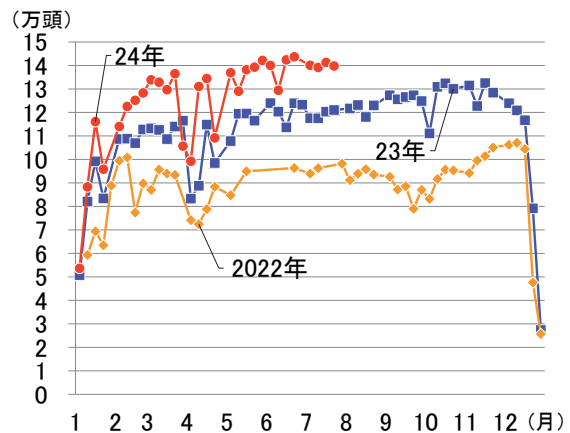


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：年度は7月～翌6月。
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

24年7月の週間成牛と畜頭数、約14万頭の高水準で推移

2024年7月の週間成牛と畜頭数は、同月第4週時点で13万9788頭と、前年同期の約2割増となる高水準で推移している（図2）。現地報道によると、旺盛な輸出需要に応えるため、多くの食肉処理施設では操業時間の延長などでと畜頭数を増やしており、今後も処理能力を高める計画があるとされている。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。
注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

24年上半期の牛肉輸出量、中国向け以外は軒並み大幅増

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年6月の牛肉輸出量は10万6127トン（前年同月比12.9%増）とかなり大きく増加した（表）。また、同年1～6月の上半期でも、60万1409トン（前年同期比25.7%増）と大幅に増加した。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2023年 6月	24年 6月	24年 (1～6月)		
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)	
米国	20,585	28,746	39.6%	155,430	74.6%
日本	18,831	25,611	36.0%	133,910	30.7%
韓国	14,486	16,088	11.1%	89,465	2.7%
中国	19,583	13,206	▲ 32.6%	89,794	▲ 9.2%
東南アジア	9,920	10,135	2.2%	63,310	21.4%
中東	2,352	2,948	25.3%	17,893	41.8%
EU	844	1,250	48.1%	6,685	74.7%
その他	7,409	8,143	9.9%	44,923	39.5%
輸出量合計	94,009	106,127	12.9%	601,409	25.7%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

輸出先別に見ると、干ばつの影響により牛肉生産量が減少している米国向けと、米国からの輸入量減少により豪州からの輸入を高めている日本向けがそれぞれ堅調に推移している。6月の輸出量は、米国向けが2万8746トン（前年同月比39.6%増）、日本向けが2万5611トン（同36.0%増）、また、1～6月の上半期では米国向けが15万5430トン（前年同期比74.6%増）、日本向けが13万3910トン（同30.7%増）といずれも大幅に増加している。

一方で、中国向けは国内の景気後退などに

より、6月は1万3206トン（前年同月比32.6%減）、1～6月の上半期では8万9794トン（前年同期比9.2%減）と主要輸出先の中で唯一減少している。

中国は24年5月末、過去数年間にわたり豪州の食肉加工施設に課していた輸入停止措置を解除（7カ所中5カ所）したが、6月の同国向けの輸出量では、これまでと同様に輸出増の兆候は見らず、今後の動向が注目される。

(調査情報部 国際調査グループ)

N Z

米国向け牛肉輸出が堅調、年度累計（10月～6月）は前年同期比17.5%増

24年5月の牛と畜頭数、5年ぶりの高水準

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年5月の牛と畜頭数は35万

8922頭（前年同月比1.7%増）と2カ月連続で前年同月を上回っており、単月の実績としては19年来の高い水準になった（図）。と畜頭数の内訳では、雄牛（3万2149頭、同16.1%減）を除き、去勢牛（6万6161頭、

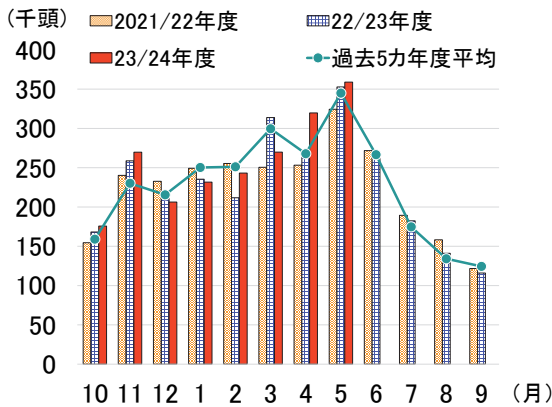
同0.8%増)、未經産牛（5万6345頭、同6.0%増）、経産牛（20万4267頭、同4.4%増）がいずれも増加した。また、23/24年度（10月～翌9月）の5月までの累計でも207万5239頭（前年同期比2.3%増）とわずかに増加した。この要因についてニュージーランド

第一次産業省は、為替相場が米ドル安の状況にあることも後押しとなり、米国向けの牛肉輸出が比較的堅調に推移したことなどを挙げている。

24年6月の牛肉輸出量、中国を抜き米国が最大の市場へ

Stats NZによると、2024年6月の牛肉輸出量は5万907トン（前年同月比1.1%増）と前年同月をわずかに上回った（表1）。輸出先別に見ると、3カ月連続で最大の輸出先となった米国向けは2万1761トン（同5.3%増）とやや増加している一方で、中国向けは1万2324トン（同33.6%減）と大幅に減少している。米ドル安による国際競争力の向上に加え、放牧主体の牛肉生産が米国の加工向け赤身肉需要に合致していること、

図 牛と畜頭数の推移



資料：Stats NZ
注：年度は10月～翌9月。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	23/24年 (10月～6月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
米国	20,673	21,761	5.3%	149,234	17.5%
冷蔵	610	676	10.8%	5,652	39.6%
冷凍	20,062	21,085	5.1%	143,582	16.8%
中国	18,570	12,324	▲ 33.6%	137,363	▲ 14.9%
冷蔵	728	430	▲ 40.9%	5,819	▲ 18.3%
冷凍	17,842	11,894	▲ 33.3%	131,544	▲ 14.8%
日本	2,155	4,744	120.1% (約2.2倍)	29,780	59.4%
冷蔵	301	752	150.2% (約2.5倍)	5,755	61.1%
冷凍	1,855	3,992	115.2% (約2.1倍)	24,025	58.9%
韓国	1,091	1,817	66.5%	11,941	▲ 25.0%
冷蔵	0	0.2	—	3	▲ 96.3%
冷凍	1,091	1,816	66.4%	11,938	▲ 24.7%
豪州	189	137	▲ 27.3%	1,666	▲ 52.3%
冷蔵	29	47	64.9%	255	▲ 55.9%
冷凍	160	90	▲ 43.7%	1,411	▲ 51.6%
その他	7,651	10,124	32.3%	66,995	27.4%
冷蔵	1,052	1,394	32.5%	11,723	32.8%
冷凍	6,600	8,731	32.3%	55,272	26.3%
合計	50,329	50,907	1.1%	396,980	4.7%
冷蔵	2,719	3,299	21.3%	29,207	20.6%
冷凍	47,610	47,608	▲ 0.0%	367,773	3.6%

資料：Stats NZ
注1：積船積重量ベース。
注2：年度は10月～翌9月。

中国経済の低迷が継続していることが要因とされており、今後も加工向けを中心に米国への堅調な輸出が続くと見込まれている。また、日本向けは4744トン（同120.1%増）と大幅に増加しており、23/24年度（10月～翌9月）の6月までの累計でも2万9780トン（前年同期比59.4%増）と、近年で最も好調な輸出実績を記録している。これは、米国が干ばつの影響により牛肉生産量が減少し、豪州産の加工向け牛肉の輸入を増やしていることから、日本ではその代替としてNZ産牛肉の取り扱いを増やしているものと考えられる。

23/24年度の牛肉生産量と輸出量、米国向けは好調も依然として前年割れ見込む

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド（BLNZ）が公表した直近の2023/24年度牛肉需給見通しによると、同年度の輸出向け

牛と畜頭数は、262万2000頭^{（注）}（前年度比2.1%減）と前回の見通しから上方修正されたが、引き続きわずかな減少が見込まれている（表2）。上方修正の要因としてBLNZは、22/23年度に生産者支払乳価の下落や生産コストの高騰から経産牛や未經産牛^{（とうた）}の淘汰が進められたことで、23/24年度は雌牛の保留傾向が強まるとの予測に対し、堅調な米国向け牛肉輸出を反映して特に未經産牛のと畜頭数を上方修正したことを挙げている。これにより、同年度の牛肉生産量は67万2000トン^{（注）}（同3.2%減）、牛肉輸出量も48万0000トン^{（注）}（同3.2%減）と、いずれも前回見通しから上方修正されたが、依然として前年割れが見込まれている。

（注）BLNZの資料では、千頭・千トン単位以下の値について確認することができないため、便宜的に0と表示している。

表2 輸出向け牛と畜頭数などの見通し

	単位	2020/21年度	21/22年度	22/23年度	23/24年度	前年度比 (増減率)
と畜頭数	千頭	2,806	2,656	2,677	2,622	▲ 2.1%
うち去勢牛	千頭	669	647	654	638	▲ 2.4%
未經産牛	千頭	550	515	525	515	▲ 1.8%
雄牛	千頭	553	529	502	502	0.0%
経産牛	千頭	1,034	965	996	966	▲ 3.0%
生産量	千トン	717	681	694	672	▲ 3.2%
うち去勢牛	千トン	208	200	205	199	▲ 3.1%
未經産牛	千トン	134	126	132	127	▲ 4.4%
雄牛	千トン	166	159	154	151	▲ 1.7%
経産牛	千トン	209	195	202	195	▲ 3.5%
1頭当たり枝肉重量	キログラム	256	256	259	256	▲ 1.1%
輸出量	千トン	504	480	496	480	▲ 3.2%
輸出金額	百万NZドル	3,867	4,794	4,380	4,042	▲ 7.7%
輸出単価	NZドル/トン	7,672	9,987	8,839	8,423	▲ 4.7%

資料：BLNZ

注1：と畜頭数、生産量、1頭当たり枝肉重量の2022/23年度は推定値、23/24年度は予測値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。輸出量は船積重量ベース。

注3：前年度比（増減率）は、表示単位以下の数値も含めて算出されている。

（調査情報部 渡部 卓人）

豚肉

メキシコ

24年の豚肉生産量、輸入量はともに前年を上回る見込み

24年の豚肉生産量は前年比2.1%増の見込み

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は7月12日、2024年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、同年の豚肉生産量は、豚肉需要の高まりや飼料価格の緩和、衛生管理技術の向上などから159万トン（前年比2.1%増）とわずかな増加が見込まれている（表1）。さらに輸入量は141万トン（同4.1%増）とやや増加が見込まれている。一方、豚肉消費量は、牛肉や鶏肉の

価格上昇に伴う代替需要から274万トン（同3.3%増）とやや増加が見込まれている。量は少ないものの豚肉輸出量は、日本や米国での堅調な需要見込みを追い風に26万トン（同0.8%増）と前年をわずかに上回ると予測している。

24年1～4月の豚肉輸入量、前年同期比8.6%増

メキシコ国立統計地理情報院（INEGI）によると、2024年1～4月の輸入量は43万2000トン（前年同期比8.6%増）とかなりの程度増加した（表2）。輸入先別に見ると、輸入量の9割近くを占める米国は、小売や外食産業からの需要増により38万3900トン（同9.2%増）とかなりの程度増加した。一方、ブラジルからの輸入量は、23年11月にメキシコ豚肉生産者協会（Opormex）が「ブラジル産豚肉の輸入に関し国際的な衛生要件を満たしていない」として裁判所に輸入停止を提訴して以降、輸入業者が自主的に輸入を

表1 豚肉需給の推移

（単位：千トン）

	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
供給量	2,829	2,911	3,000	3.1%
生産量	1,530	1,557	1,590	2.1%
輸入量	1,299	1,354	1,410	4.1%
輸出量	285	258	260	0.8%
消費量	2,544	2,653	2,740	3.3%

資料：USDA/FAS「Livestock and poultry」

注1：23、24年は予測値。

注2：枝肉重量ベース。

表2 輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：千トン）

	2023年	23年 (1～4月)	24年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)	輸入割合
米国	1061.6	351.5	383.9	9.2%	88.9%
カナダ	158.0	45.5	47.5	4.3%	11.0%
ブラジル	19.9	0.7	0.6	▲16.1%	0.1%
合計	1239.6	397.7	432.0	8.6%	100.0%

資料：INEGI

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0203。

控えており、600トン（同16.1%減）と少量にとどまった。

24年1～4月の豚肉輸出量は5万8000トン（同3.7%増）とやや増加した（表3）。輸出先別に見ると、輸出先第1位の日本向け

は4万5500トン（同3.8%増）、第2位の米国向けは8600トン（同5.3%増）といずれもやや増加した。一方、韓国向けは米国産との競合などから3800トン（同1.3%減）とわずかに減少した。

表3 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2023年	23年 (1～4月)	24年 (1～4月)	24年	
				前年同期比 (増減率)	輸出割合
日本	134.2	43.8	45.5	3.8%	78.5%
米国	27.3	8.2	8.6	5.3%	14.9%
韓国	17.7	3.9	3.8	▲1.3%	6.6%
その他	0.8	—	—	—	—
合計	180.0	55.9	58.0	3.7%	100.0%

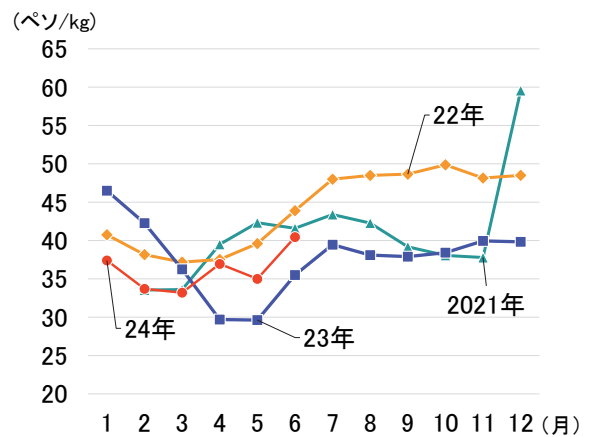
資料：INEGI
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0203。

生体豚価格は24年4月以降、前年同月を上回って推移

メキシコ国家情報市場統合システム（SNIIM）によると、2024年6月の生体豚価格は、1キログラム当たり40.45ペソ（368円：1ペソ＝9.11円^{（注）}、前年同月比13.9%高）とかなり大きく上昇した（図）。同価格は、国内の豚肉生産量が増加している中で、旺盛な需要を背景に24年4月以降、前年同月を上回って推移している。一方、同年6月の豚枝肉価格は、2カ月連続で上昇しているものの同62.50ペソ（569円、同3.1%安）と前年同月をやや下回った。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

図 生体豚価格の推移



資料：SNIIM
注：2021年1月は未発表。

（調査情報部 小林 大祐）

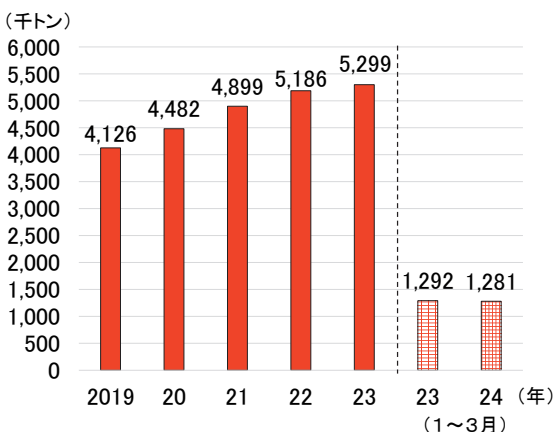
ブラジル

24年1～6月豚肉輸出量、中国向けは減少もアジアや米州向けが増加

24年1～3月の豚肉生産量は前年同期比0.9%減

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2024年1～3月の豚肉生産量は128万1000トン（前年同期比0.9%減、速報値）と前年同期をわずかに下回った（図1）。同国の年間豚肉生産量は、国内外からの需要の増加を背景に23年まで10年連続の増加となったが、23年は529万9000トン（前年比2.2%増）とわずかな増加にとどまっている。

図1 豚肉生産量の推移



資料：IBGE
注1：枝肉重量ベース。
注2：24年は速報値。

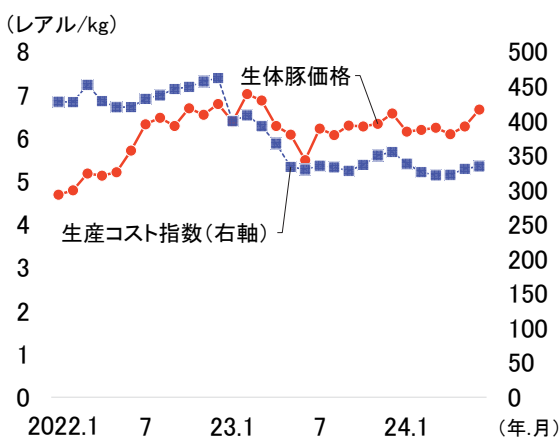
24年6月の生体豚価格は前年同月比21.3%高

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2024年6月のブラジルの生体豚価格（パラナ州）は、1キログラム当たり6.66レアル（180円：1レアル＝27.10円^注、前年同月比21.3%高）となった（図2）。豚肉生産量が安定的に推移する中、国内外からの堅調な需要が価格を後押しした

とみられる。一方、同月の豚肉生産コスト指数は334.07で前年同月（同329.58）をわずかに上回る水準（同1.4%高）にとどまっていることから、生産者の収益性は改善しているものとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生体豚価格および生産コスト指数の推移



資料：生体豚価格：CEPEA、生産コスト指数：ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）

注1：パラナ州における生体豚価格。

注2：生産コスト指数は2005年1月を100とする。

24年1～6月の豚肉輸出量は前年同期比0.6%増、中国向けは同4割減

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年1～6月の豚肉輸出量は52万9260トン（前年同期比0.6%増）と前年同期をわずかに上回った（表）。同国の年間豚肉輸出量は、3年連続で100万トンを超えているが、24年1～6月も同程度のペースで推移している。一方、輸出額は、輸出単価の低下から同8.6%減と前年同期をかなりの程度下回った。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは11万7341トン（同42.5%減）と

前年同期を大幅に下回った。同国向けは、中国国内での豚肉需給の緩和を背景に23年8月以降前年同月を大幅に下回っており、24年3月以降の輸出量は月間2万トンを下回る水準となった。この結果、同期の中国向けの輸出比率は22.2%となり、前年同期(38.8%)

から16.6ポイント低下した。一方、フィリピン、チリ、シンガポール、日本、韓国、メキシコといったアジアや米州向けへのシフトが進んでおり、中国向けの落ち込みを補完した。特に主要輸出先のうち、日本、韓国およびメキシコ向けは同2倍以上の増加となった。

表 輸出先別冷蔵・冷凍豚肉輸出の推移

	2023年 (1~6月)			24年 (1~6月)			前年同期比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	204,019	514,724	2,523	117,341	243,072	2,072	▲42.5%	▲52.8%	▲17.9%
フィリピン	42,839	114,804	2,680	68,882	161,351	2,342	60.8%	40.5%	▲12.6%
チリ	40,977	97,724	2,385	49,799	106,401	2,137	21.5%	8.9%	▲10.4%
香港	52,910	127,970	2,419	41,137	91,531	2,225	▲22.3%	▲28.5%	▲8.0%
シンガポール	34,219	91,162	2,664	39,588	96,369	2,434	15.7%	5.7%	▲8.6%
日本	17,679	60,550	3,425	36,943	119,764	3,242	109.0% (約2.1倍)	97.8%	▲5.3%
ウルグアイ	24,741	59,206	2,393	21,802	50,464	2,315	▲11.9%	▲14.8%	▲3.3%
ベトナム	15,473	39,420	2,548	19,330	44,193	2,286	24.9%	12.1%	▲10.3%
韓国	4,399	14,551	3,308	15,735	38,768	2,464	257.7% (約3.6倍)	166.4%	▲25.5%
メキシコ	6,631	17,767	2,679	13,521	31,857	2,356	103.9% (約2.0倍)	79.3%	▲12.1%
その他	82,041	182,505	2,225	105,182	223,294	2,123	28.2%	22.3%	▲4.6%
合計	525,928	1,320,384	2,511	529,260	1,207,065	2,281	0.6%	▲8.6%	▲9.2%

資料：SECEX

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 井田 俊二)

牛乳・乳製品

米 国

24年6月の生乳生産量は前年同月比1.0%減、価格は高値で推移

24年6月の生乳生産量は前年同月比1.0%減、マージンは大幅に上昇

米国農務省全国農業統計局(USDA/NASS)によると、2024年6月の生乳生産量は、851万3000トン(前年同月比1.0%減)とわずかに減少した(図1)。これは、平均気温が例年より高く牛の暑熱ストレスが増加したためとされている。

米国農務省農場サービス局(USDA/FSA)によると、24年6月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり22.8米ドル(1キログラム当たり77.1円:1米ドル=153.44円^(注1)、同27.4%高)と大幅に上昇した(図2)。また、飼料価格の下落も相まって酪農マージン^(注2)は同11.66米ドル(同39.4円、同約3.2倍)と大幅に上昇している。24年の生乳生産量についてUSDAは、酪農マージンの上昇により

各農場の生産体制の拡大が見込まれる一方で、暑熱ストレスや乳牛の供用期間の延長による乳牛更新の遅れなどから1頭当たりの生乳生産量は伸び悩み、約1億292万トン（前年比0.2%増）と予測している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2024年7月末TTS相場。
 (注2) 酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図1 生乳生産量の推移

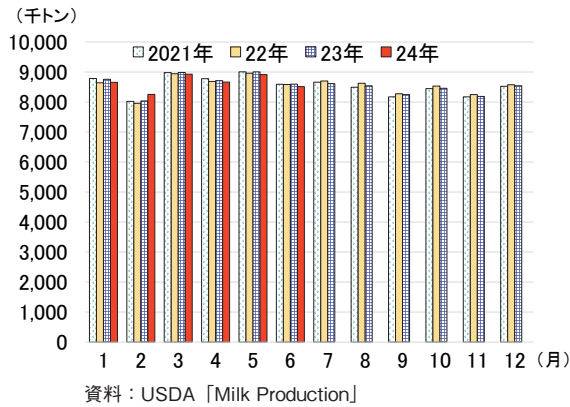
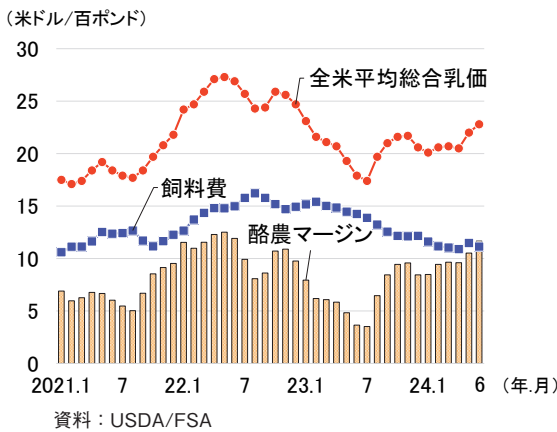


図2 酪農マージンの推移



24年6月のチーズおよびバターの卸売価格、前年同月比大幅高

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2024年6月のチーズ卸売価格は1ポンド当たり1.89米ドル（1キログラム当たり639円、前年同月比

34.9%高）、バター卸売価格も同3.09米ドル（同1045円、同29.5%高）とそれぞれ大幅に上昇した（図3、4）。6月の月末在庫量を見ると、チーズは64.6万トン（同5.8%減）とやや減少した。また、バターも需給がひっ迫していたものの、3月以降、昨年と比べると在庫量が多く推移していたため16.9万トン（同6.8%増）とかなりの程度増加した。

図3 チーズの卸売価格

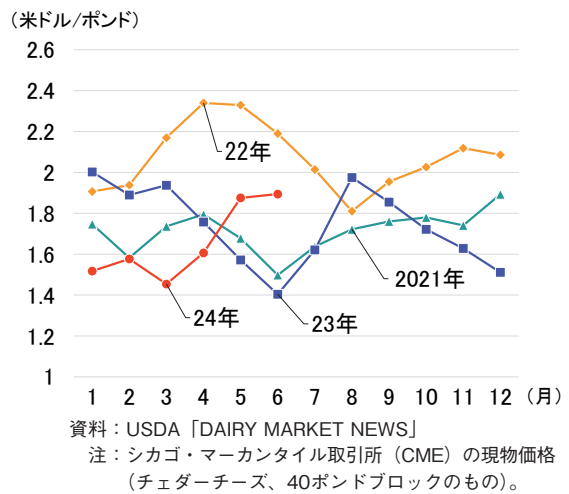
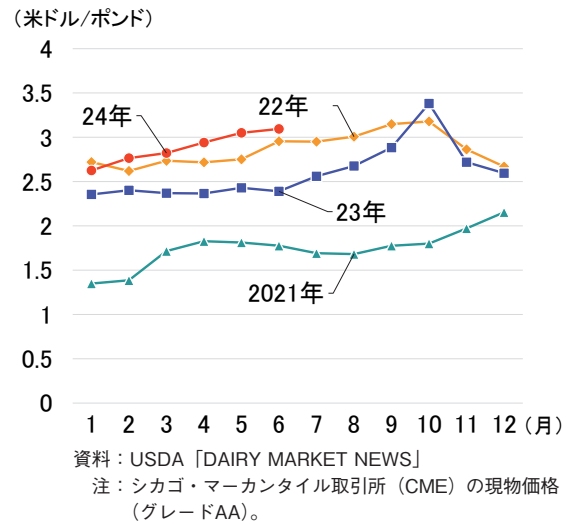


図4 バターの卸売価格



24年5月の乳製品輸出量、チーズがけん引して乳脂肪分ベースで大幅増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年5月の乳製品輸出量は乳脂肪分

ベースで前年同月比18.4%増、無脂乳固形分ベースで同7.7%減となった。品目別に見ると、チーズは国際的な価格競争力が優位なことで、4万8000トン（前年同月比46.5%増）と大幅に増加し、乳脂肪分ベースの輸出増をけん引した（表）。WPC（タンパク質濃縮

ホエイパウダー）は、健康志向の高まりによる中国向けの輸出増により、1万2800トン（同3.6%増）とやや増加した。一方、脱脂粉乳は東南アジアでの需要減などにより、6万600トン（同24.2%減）と大幅に減少した。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～5月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	80.0	60.6	▲24.2%	315.5	▲11.4%
チーズ	32.8	48.0	46.5%	225.8	27.9%
乳糖	38.2	32.6	▲14.6%	167.7	▲6.7%
ホエイ	16.1	15.9	▲1.6%	77.6	▲5.8%
WPC	12.4	12.8	3.6%	67.4	13.6%
バター	2.8	2.3	▲19.4%	11.7	▲18.7%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

（調査情報部 中島 勝紘）

E U

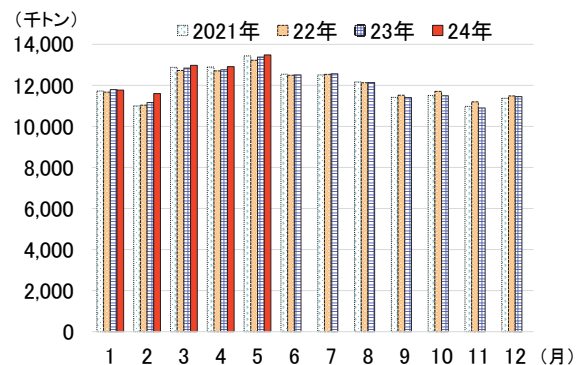
24年7月のバター価格、在庫確保の動きから上昇を継続

24年5月の生乳出荷量、前年同月比0.8%増

欧州委員会によると、2024年5月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1348万2000トン（前年同月比0.8%増）と前年同月をわずかに上回った（図1、表）。主要生産国別に見ると、オランダ（同1.5%減）、アイルランド（同2.3%減）およびベルギー（同0.7%減）を除き、いずれも前年同月並みもしくは前年同月を上回った。アイルランドでは、24年当初の悪天候による牧草の生育不良などが影響し、生乳出荷量は15カ月連続で前年同月を下回っているが、5月の減少幅は前月に比べて縮小した。一方、生乳出荷量

の増加が続くポーランド（同4.5%増）は、32カ月連続で前年同月を上回ったが、欧州委員会によるとポーランドを含む東欧では5月中下旬の降水量が不足していることから、牧草や飼料穀物への影響が懸念される。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～5月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,895	2,896	0.0%	13,867	0.3%
フランス	2,140	2,148	0.3%	10,446	1.1%
ポーランド	1,172	1,225	4.5%	5,791	4.8%
オランダ	1,230	1,211	▲1.5%	5,900	▲1.2%
アイルランド	1,193	1,166	▲2.3%	3,438	▲5.9%
イタリア	1,133	1,156	2.1%	5,743	5.7%
スペイン	656	668	1.8%	3,210	2.3%
デンマーク	500	501	0.2%	2,394	0.1%
ベルギー	420	417	▲0.7%	2,022	1.3%
その他	2,040	2,094	2.6%	9,927	2.7%
合計	13,380	13,482	0.8%	62,737	1.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

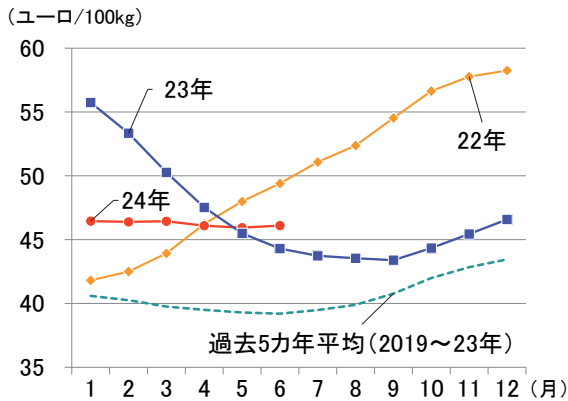
24年6月の生乳取引価格、2カ月連続で前年同月を上回る

欧州委員会によると、2024年6月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.10ユーロ（1キログラム当たり76.71円：1ユーロ＝166.39円^(注)、前年同月比4.1%高）と2カ月連続で前年同月を上回った（図2）。生乳取引価格は7カ月連続で、

同46ユーロ前後と安定しているが、過去5年（19～23年）の平均生乳取引価格と比べると、同月は17%程度高い水準にあり、これも生乳出荷量の増加に寄与しているとみられる。なお、直近のバター価格は上昇基調にあり、今後生乳取引価格の上昇も予想される。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

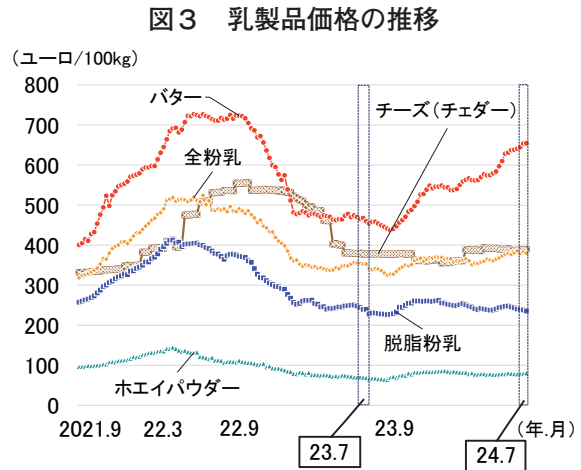
注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年7月の乳製品価格、バターを中心に前年同期を上回る

欧州委員会によると、2024年7月21日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、脱脂粉乳が100キログラム当たり235ユーロ（1キログラム当たり391円、前年同期比3.3%高）、全粉乳が同380ユーロ（同632円、同11.4%高）、チーズが同389ユーロ（同647円、同3.0%高）、ホエイパウダーが同80ユーロ（同133円、同22.5%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。

中でもバターは、同654ユーロ（同1088円、同44.2%高）と前年同期を大幅に上回った。米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、夏の休暇時期で季節的な市場停滞は見られるものの、秋から冬の需要に向けて在庫を確保する動きから、平年を上回る価格で推移しているとされる。



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部 渡辺 淳一）

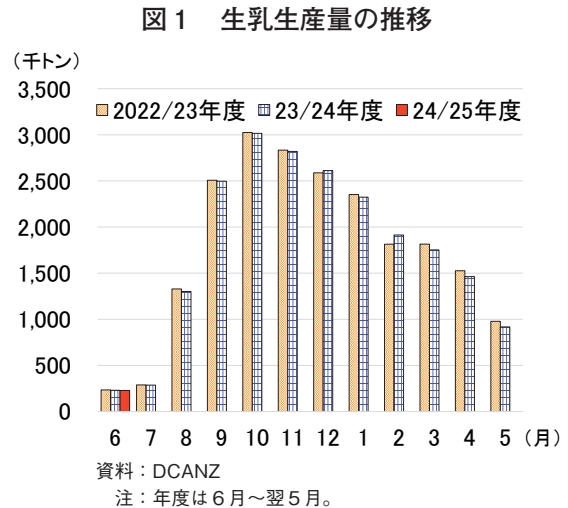
N Z

24/25年度シーズン開始、輸出振るわず乳価への影響懸念

24年6月の生乳生産量、前年同月下回るも減少幅は縮小傾向

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024/25年度（6月～翌5月）の幕開けとなる6月の生乳生産量は22万8000トン（前年同月比1.7%減）とわずかに減少し、4カ月連続で前年同月を下回った（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、昨シーズン終盤の干ばつ傾向により、一部の地域で生乳生産の出足が鈍かったためとしている。実際に6月の牧草の生育状況を見ると、北島は平年を上回る成長率であったが、南島では土壌の乾燥が続いたため、6月後半には牧草生育指数（PGI）^{（注1）}が大きく低下している。今後の生乳生産の見通しとしては、7月は前年同月比0.2%減となるものの、8月以降は牧草の生育が回復することで前年同月を上回って推移すると予測している。

（注1）NZXが提供している牧草の生育状況を示す指標。ニュージーランド国立水・大気研究所（NIWA）の気象予測データを用いて算出しており、生乳生産量と正の相関を示すことで知られている。



24年6月の乳製品輸出量、主要4品目すべてで減少

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年6月の乳製品輸出量は、主要4品目すべてで前年同月を下回った（表、図2）。これは、最大の輸出先である中国の需要減退が大きく響いており、同国向けの

輸出货量は主要4品目すべてで大幅減となった。特に、バターおよびバターオイルの輸出货量は前年同月比で約5割の減少となった。

また、23/24会計年度（7月～翌6月）の主要4品目の総輸出货量は、271万9838トン（前年同期比2.4%増）とわずかに増加

したものの、総輸出額は世界的な乳製品価格の下落が影響し、166億6454万NZドル（1兆5331億円：1NZドル＝92.00円^{（注2）}、同9.2%減）とかなりの程度減少した。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

表 乳製品輸出货量の推移

（単位：トン）

品目	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7月～翌6月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	42,493	38,772	▲ 8.8%	449,107	3.0%
全粉乳	119,627	106,534	▲ 10.9%	1,452,493	5.7%
バターおよびバターオイル	44,070	30,266	▲ 31.3%	450,171	▲ 4.8%
チーズ	33,692	32,974	▲ 2.1%	368,068	▲ 1.3%

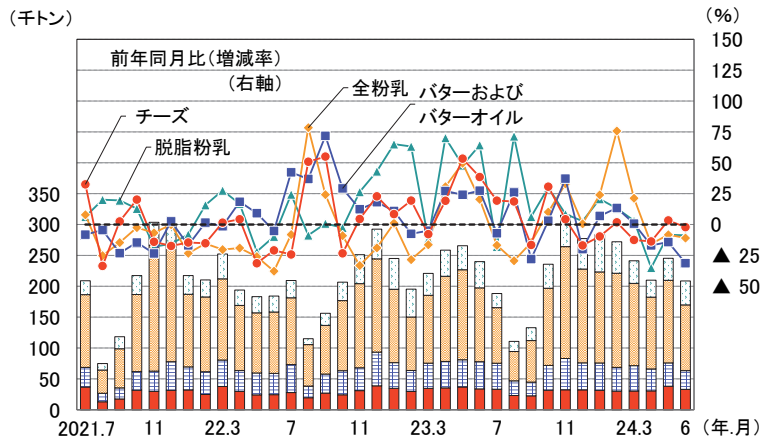
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

24年7月中旬のGDT平均価格、チーズが6.0%高

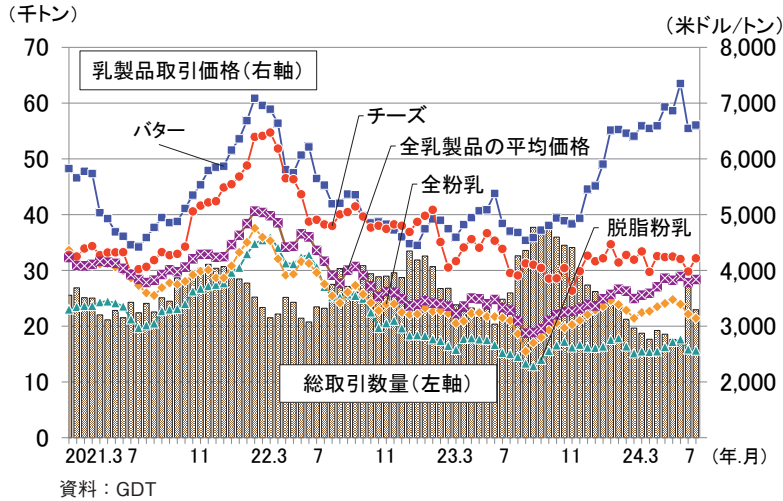
2024年7月16日開催のGDT^{（注3）}平均取引価格は、バターとチーズが前回開催時（同年7月2日）を上回り、特にチーズは中東・アフリカからの引き合いが高まり、4217米ドル（64万7056円：1米ドル＝153.44円^{（注2）}、

前回比6.0%高）とかなりの程度上昇した（図3）。この結果、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3837米ドル（58万8749円、前回比1.5%高）とわずかに上昇した。NZXは、「乳脂肪の短期的な需給ひっ迫により全体平均が上向いたが、バター価格は前々回開催時（同年6月18日）をピークに下降局面に入っていることから、今後の上昇局面は

見込めない」とし、「粉乳類の需要低迷が続く限り、今後の乳製品価格は軟化する可能性が高い」としている。

(注3)グローバルデイトレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 渡部 卓人)

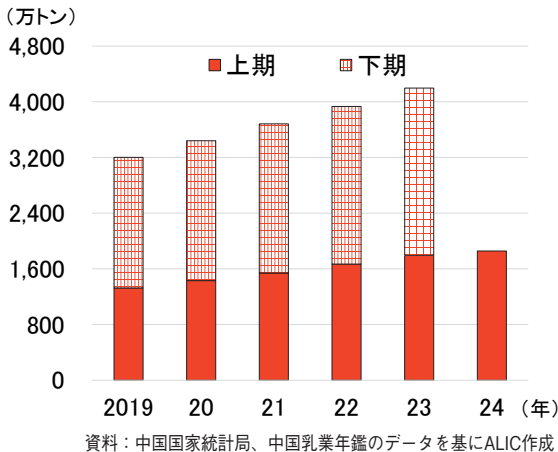
中国

生乳生産量の伸びは低下するも、乳価下落は止まらず

24年上期の生乳生産量、前年同期比3.5%増

中国国家统计局によると、2024年上期（1～6月）の生乳生産量は、前年同期比3.5%増の1856万トンとなった(図1)。19年以降、上期の生乳生産量の増加率は前年同期比8%

図1 生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑のデータを基にALIC作成

前後で推移していたが、生乳価格の低迷などを受け、今期は伸びが低下した。

中国の生乳生産量については、上期に比べて下期（7～12月）が3～4割程度増加する傾向にある。このため、仮に24年も同様の傾向で推移した場合、下期の生乳生産量は2400万トンを超え、年間では4250万トンを超えるは見込まれる(注1)。

(注1) 年間生乳生産量の見込みなど詳細は、『畜産の情報』2024年7月号「生乳生産量はさらに増加、乳製品輸入量は引き続き低水準」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003299.html)をご参照ください。

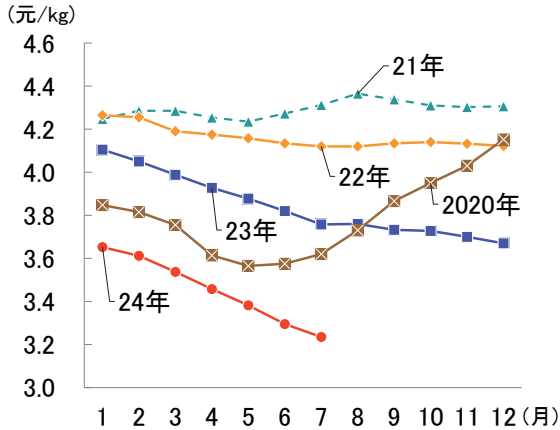
24年7月の生乳価格、前年同月比13.8%安

中国農業農村部によると、2024年7月の生乳価格は1キログラム当たり3.24元(69.24円：1元＝21.37円(注2)、前年同月比

13.8%安)と前年同月をかなり大きく下回った(図2)。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の24年7月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部
注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

24年下期の生乳価格について中国農業農村部は、24年7月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年6月）」（以下「月報」という）の中で、生産性の低い乳牛の淘汰などが進むことで生乳生産量の増加率は鈍化するが、生乳需要の低迷が続くことから、今後も低水準で推移するとしている。

24年上期の乳製品輸入量、需給の緩和で引き続き低迷

2024年上期（1～6月）の乳製品主要8品目の輸入量は、8品目中2品目（チーズおよびバター）で前年同期を上回ったが、その他の6品目はいずれも下回った(表)。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	64.4	84.9	70.1	43.1	25.0	▲9.7%	▲12.1%
脱脂粉乳	33.6	42.6	33.5	34.7	13.2	▲36.6%	▲44.5%
飲用乳	84.5	99.6	72.2	54.8	20.0	▲23.9%	▲24.6%
ヨーグルト	2.8	2.5	2.2	1.8	0.6	▲41.8%	▲27.2%
チーズ	12.9	17.6	14.5	17.8	8.8	0.7%	▲4.6%
バター	8.6	9.7	10.1	9.3	5.4	6.0%	8.7%
育児用調整粉乳	34.8	27.3	28.0	23.8	9.7	▲35.0%	▲26.6%
ホエイ	62.3	71.8	59.9	65.6	28.9	▲12.3%	▲23.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

月報の中で中国農業農村部は、輸入量減少の要因について中国国内の乳製品需要の低迷を挙げている。また、24年の乳製品輸入量については、4月に公表した「中国農業展望報告（2024－33）」の中で、国内での生乳の供給過剰が続くことから、引き続き減少（生乳換算で前年比1.0%減）するとしている(注3)。ただし、上述の乳牛の淘汰などが

進められた結果、想定を超えて生乳生産量が減少する可能性もあることから、今後の需給動向を注視する必要がある。

(注3) 海外情報「中国農業展望報告（2024－2033）を発表（牛乳・乳製品編）（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003854.html)（令和6年6月26日発）をご参照ください。

(調査情報部 平山 宗幸)

飼料穀物

世界

米国などの増産見込みを受けて期末在庫は高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年7月12日、2024/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億2479万トン（前年度比0.1%減）と前月から425万トン上方修正された。地域別に見ると、カナダでは作付面積、EUとロシアでは単収がそれぞれ下方修正されたことで、生産量も下方修正された。一方で、米国では作付面積の上方修正に伴い生産量も610万トン上方修正された。

輸入量は、1億8651万トン（同1.0%減）と前月から35万トン上方修正された。主要国はいずれも据え置かれたが、カナダやメキシコ

での上方修正がイランやバングラデシュの下方修正を上回った。

消費量は、12億2228万トン（同0.3%増）と前月から12万トン上方修正された。このうち、中国は前月から据え置かれたが、米国での上方修正がウクライナやEUの下方修正を上回った。

輸出量は、1億9181万トン（同4.5%減）と前月から6万トン上方修正された。ブラジルやアルゼンチンは前月から据え置いたが、生産量の増加を背景とした米国の上方修正が大きく、世界計に反映された。

この結果、期末在庫は3億1164万トン（同0.8%増）と前月から87万トン上方修正され、引き続き高水準を維持すると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2024年7月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	34.98	34.55	51.36	47.67	38.0%
生産量	346.74	389.69	377.46	383.56	▲ 1.6%
輸入量	0.98	0.76	0.64	0.64	▲ 15.8%
消費量	305.93	320.82	320.18	322.09	0.4%
輸出量	42.22	56.52	55.88	56.52	0.0%
期末在庫	34.55	47.67	53.39	53.26	11.7%
ブラジル					
期首在庫	3.97	10.04	3.84	3.84	▲ 61.8%
生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
消費量	78.00	79.50	80.50	80.50	1.3%
輸出量	54.26	50.00	49.00	49.00	▲ 2.0%
期末在庫	10.04	3.84	2.84	2.84	▲ 26.0%
アルゼンチン					
期首在庫	4.75	1.32	1.54	1.54	16.7%
生産量	36.00	52.00	51.00	51.00	▲ 1.9%
輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
消費量	14.20	14.80	14.80	14.80	0.0%
輸出量	25.24	37.00	36.00	36.00	▲ 2.7%
期末在庫	1.32	1.54	1.74	1.74	13.0%
ウクライナ					
期首在庫	7.80	2.80	2.91	1.51	▲ 46.1%
生産量	27.00	31.00	27.70	27.70	▲ 10.6%
輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	4.90	4.30	4.65	4.05	▲ 5.8%
輸出量	27.12	28.00	24.50	24.50	▲ 12.5%
期末在庫	2.80	1.51	1.48	0.68	▲ 55.0%
EU					
期首在庫	11.51	7.69	7.59	7.59	▲ 1.3%
生産量	52.29	61.00	64.80	64.00	4.9%
輸入量	23.19	20.50	18.00	18.00	▲ 12.2%
消費量	75.10	77.20	78.70	78.10	1.2%
輸出量	4.20	4.40	4.20	4.00	▲ 9.1%
期末在庫	7.69	7.59	7.49	7.49	▲ 1.3%
中国					
期首在庫	209.14	206.04	210.86	210.86	2.3%
生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
輸入量	18.71	23.00	23.00	23.00	0.0%
消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	206.04	210.86	212.84	212.84	0.9%
世界計					
期首在庫	313.74	302.33	312.39	309.13	2.2%
生産量	1159.60	1225.45	1220.54	1224.79	▲ 0.1%
輸入量	173.39	188.35	186.16	186.51	▲ 1.0%
消費量	1171.01	1218.66	1222.16	1222.28	0.3%
輸出量	180.34	200.95	191.75	191.81	▲ 4.5%
期末在庫	302.33	309.13	310.77	311.64	0.8%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 岡田 真希奈）

米国の生産減も輸出入量は変わらず、 期末在庫はかなりの増加見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年7月12日、2024/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2185万トン（前年度比6.7%増）と前月から41万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億6900万トン（同10.5%増）、これに次ぐ米国は1億2070万トン（同6.5%増）、アルゼンチンは5100万トン（同3.0%増）と、米国を除きいずれも前月から据え置かれた。米国は単収が前月から据え置かれたものの、作付面積が下方修正されたことが影響した。また、中国は2070万トン（同0.7%減）と据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7640万トン（同2.0%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万

トン（同0.9%増）と同じく据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4568万トン（同5.0%増）と前月から10万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8020万トン（同2.9%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億500万トン（同1.9%増）、これに次ぐ米国も4967万トン（同7.3%増）と、いずれも据え置かれた。

この結果、期末在庫は1億2776万トン（同14.8%増）と前月から14万トン下方修正された。

今回の内容に関して輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量は9460万トンと前月から据え置かれており、引き続きこの乖離^{かいり}が注目される。

表 主要国の大豆需給見通し（2024年7月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.47	7.19	9.53	9.40	30.7%
生産量	116.22	113.34	121.11	120.70	6.5%
輸入量	0.67	0.54	0.41	0.41	▲ 24.1%
消費量	60.20	62.32	66.00	66.00	5.9%
輸出量	53.87	46.27	49.67	49.67	7.3%
期末在庫	7.19	9.40	12.38	11.85	26.1%
ブラジル					
期首在庫	27.38	36.82	30.57	29.72	▲ 19.3%
生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量	0.15	0.75	0.15	0.15	▲ 80.0%
消費量	53.41	54.00	54.00	54.00	0.0%
輸出量	95.50	103.00	105.00	105.00	1.9%
期末在庫	36.82	29.72	36.62	35.77	20.4%
アルゼンチン					
期首在庫	23.69	17.00	26.15	24.85	46.2%
生産量	25.00	49.50	51.00	51.00	3.0%
輸入量	9.06	6.70	5.50	5.50	▲ 17.9%
消費量	30.32	35.50	40.00	40.00	12.7%
輸出量	4.19	5.60	5.50	5.50	▲ 1.8%
期末在庫	17.00	24.85	29.55	28.25	13.7%
中国					
期首在庫	25.15	32.34	36.38	39.38	21.8%
生産量	20.28	20.84	20.70	20.70	▲ 0.7%
輸入量	104.50	108.00	109.00	109.00	0.9%
消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	32.34	39.38	39.18	42.18	7.1%
世界計					
期首在庫	92.58	100.61	111.07	111.25	10.6%
生産量	378.37	395.41	422.26	421.85	6.7%
輸入量	167.86	172.86	176.40	176.40	2.0%
消費量	315.44	329.18	345.78	345.68	5.0%
輸出量	171.76	175.13	180.20	180.20	2.9%
期末在庫	100.61	111.25	127.90	127.76	14.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

作付面積の拡大に伴い生産量は上方修正、生産者販売価格は引き続き低迷

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2024年7月12日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、作付面積と収穫面積の上方修正を受けて、151億ブッシェル（3億8356万トン^{（注1）}、前年度比1.6%減）と前月から上方修正され、前年度からわずかに減少すると見込まれている。

米国内消費量は、126億8000万ブッシェル（3億2208万トン、同0.4%増）とわずかな増加が見込まれている。このうち、飼料等向けは、供給量の増加などからわずかな増加が見込まれている。

輸出量は、生産量の上方修正などを背景に

22億2500万ブッシェル（5652万トン、前年度同）と上方修正された。

この結果、総供給量が総消費量を上回り、期末在庫は20億9700万ブッシェル（5327万トン、前年度比11.7%増）と前月から下方修正されたものの、高水準だった前年度をかなり大きく上回ることが見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.1%（同1.5ポイント増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.30米ドル（660円。1キログラム当たり26.0円：1米ドル＝153.44円^{（注2）}、同7.5%安）とかなりの程度下落が見込まれている。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年7月12日米国農務省公表）

	－単位－	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			前年度比 (増減率)
				(6月予測)	(7月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.0	91.5	37.03 (百万ヘクタール)	▲3.3%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.1	83.4	33.75 (百万ヘクタール)	▲3.6%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	181.0	181.0	11.36 (トン/ヘクタール)	2.1%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	2,022	1,877	47.68 (百万トン)	38.0%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,342	14,860	15,100	383.56 (百万トン)	▲1.6%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	30	25	25	0.64 (百万トン)	▲16.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,732	16,907	17,002	431.87 (百万トン)	1.6%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,630	12,605	12,680	322.08 (百万トン)	0.4%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,775	5,750	5,825	147.96 (百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,855	6,855	6,855	174.12 (百万トン)	0.0%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,450	5,450	5,450	138.44 (百万トン)	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,225	2,200	2,225	56.52 (百万トン)	0.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,855	14,805	14,905	378.60 (百万トン)	0.3%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,877	2,102	2,097	53.27 (百万トン)	11.7%
期末在庫率	(%)	9.9	12.6	14.2	14.1		1.5ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.65	4.40	4.30	26.0 (円/kg)	▲7.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25,401キログラム、1エーカーは約0,4047ヘクタール。

注3：端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

今回の作付面積と収穫面積の上方修正は、米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）が6月28日に公表した作付面積の調査結果に基づいており、作付面積である9150万エーカー（3703万ヘクタール、前年度比3.3%減）は、統計が開始された1944年以降で8番目の規模となっている。

ただし、今回の予測では、23/24年度の米国の消費量と輸出量が前月からそれぞれ

191万トン上方修正されたことなどから、同年度の期末在庫が下方修正され、24/25年度の期末在庫に反映される形となった。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

（調査情報部 岡田 真希奈）

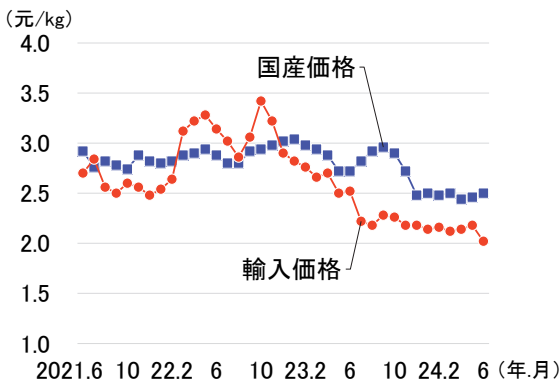
中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年6月の国産トウモロコシ価格、干ばつの影響懸念などでわずかに上昇

中国農業農村部は7月24日、「農産物需給動向分析月報（2024年6月）」を公表した。この中で、2024年6月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、産地在庫の減少から供給は取引業者在庫の取り崩しに移行している。このような中で、北部の干ばつなどから生産への影響が懸念されており、

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

取引業者はこの機を利用し、在庫保管経費の軽減も念頭に販売価格への転嫁を進めているとされている。このため、当面の国産トウモロコシ価格は堅調な推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、主要な養豚生産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、24年6月が1キログラム当たり2.02元（43円：1元＝21.37円^注、前月比7.3%安）とかなりの程度下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.50元（53円）となったことで、輸入と国産との価格差は前月の同0.28元（6円）から同0.48元（10円）に拡大した。

24年6月の国産大豆価格、需要停滞も供給減から前月並みを維持

2024年6月の国産大豆価格は前月並みとなった（図2）。同月の大豆需給を見ると、産地や市中在庫の減少から供給は備蓄大豆の取り崩しに移行している。需要面では、各地での気温上昇の影響から、食用など加工需要の

低下により緩和傾向にあるが、主産地東北部での長雨により、生育への影響が懸念されているため、当面の国産大豆価格は、安定した推移が見込まれている。

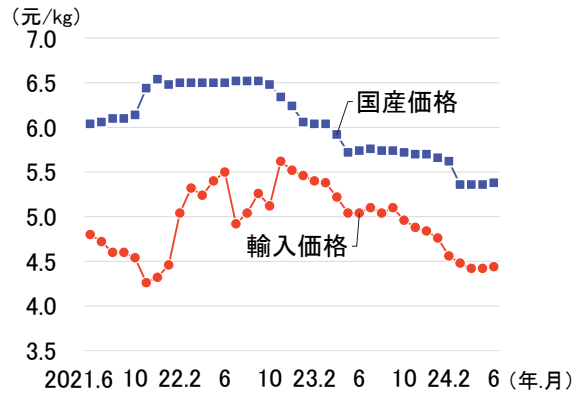
各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年6月が1キログラム当たり4.66元（100円、前年同月比9.0%安）と前年同月をかなりの程度下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.38元（115円、同6.4%安）と前年同月をかなりの程度下回った。同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同4.44元（95円）となったことで、輸入と国産との価格差は前月と同じく同0.94元（20円）となった。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて低い水準にある。24年（1～5月）の輸入量は3737万トン（前年同期比5.4%減）、

輸入額は同22.4%減の197億8100万米ドル（3兆352億円：1米ドル＝153.44円^{（注）}）と報告されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年7月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引き渡し価格（課税後）。

（調査情報部 横田 徹）